

Section 4

名古屋圏の将来構想



2050年 名古屋圏の将来像と対応策

全国のものづくりを牽引する名古屋圏では、名古屋市を中心に周辺都市が連携し、DXやカーボンニュートラル、ダイバーシティなど、さまざまな課題に取り組みながら産業基盤の再構築を進めています。2025年には、高速道路での自動運転レベル4の実現が予定されており、2050年までには一般道での自動運転レベル5が実用化されています。さらに、2050年までにCO₂排出量±0(ネットゼロ)の国家目標が達成されるとともに、ドローンによる物資の自動搬送や空飛ぶクルマの実用化など、交通革命が予想を超えるスピードで進展しています。

また、日本中央回廊の形成により、名古屋圏は経済・交通のハブとしての役割を担い、産業の発展、観光の振興、地方創生が進んでいます。南海トラフ地震や大規模洪水、高潮などの大規模災害、さらには激甚化・頻発化する災害リスクに加え、高度経済成長期に集中的に整備されたインフラの老朽化にも対応するため、耐震化・耐久化の推進、スマート技術の活用、都市のレジリエンス向上、グリーンインフラの導入など、多角的な対策が講じられています。こうした取り組みにより、名古屋圏は将来にわたって災害に強く持続可能な地域として発展を続けています。

一方、名古屋圏に暮らす人々は、日本三大都市の一翼を担うことを誇りに、最先端の流行や生活・文化サービスを圏内で享受しながら、周辺市町村の美しい自然、歴史と個性あふれる地域や人々と身近に触れ合うなど、安全・安心で豊かな生活を送っています。

新たなものづくりを支える基盤整備

将来予測が困難なVUCA時代を迎える中で、あらゆる課題に対して国内先端産業のイノベーションを絶えず先導し、物流、情報、技術・サービス、それを支える人々をシームレスにつなぐ基盤が整備されています。

名古屋圏における都市間連携

リニア、空港、鉄道、バス等の様々な交通手段のシームレスな連携に加え、交通や物流のシステムの高制度化、自動化の進展により、大都市名古屋を中心に周辺の主要都市間で有機的な繋がりが形成されており、生活、物流、観光のあらゆる場面で連携した活動が生まれています。

拠点都市のリノベーション

都市部の積極的なカーボンニュートラルの取り組みによって、ゼロエミッションが実現され、デザイン都市名古屋を核として周辺都市も一体となって、緑豊かな美しい都市景観を創出しています。また、IoTを活用したスマートメンテナンスや防災に強いまちづくりを推進するとともに、多様なモビリティによる快適な移動環境を整備し、グリーンインフラの推進・活用によって自然豊かな空間を確保しています。

- 安全で快適な移動・生活環境の整備
- 道路空間の利活用の推進
- 水辺空間の利活用の推進
- いまあるものの付加価値化・リノベーションの推進

4.1 新たなものづくりを支える基盤整備

名古屋圏には、自動車産業や航空宇宙産業を中心としたものづくり産業に加え、陶器や織物などの伝統産業が集積しています。これらの産業拠点と名古屋港やセントレアなどの交通拠点が有機的に連携した交通ネットワークが整備され、産業活動が一層活発化しています。

さらに、多様な働き方に対応した制度が充実し、新技術の導入やDX推進により、担い手不足や技術継承等の課題が解消され、既存産業の発展に加え、新たな産業が創出されています。

また、南海トラフ地震や大雨による水害などの自然災害に備え、強靱かつ柔軟な対応が可能なインフラ基盤が整備され、災害に強い都市が構築されています。

① 将来物流を下支えする基盤整備

情報通信技術の発達と情報基盤の整備により、タイムリーな交通状況のデータ共有が可能となり、交通渋滞の無い社会が実現しています。

ハード面では、災害に対応し物流を支える道路網、公共交通、上下水道、エネルギー等のインフラ整備とドローン技術による空の交通整理が行われています。さらに、産業集積の進展と自動化技術の高度化により新たな配送や輸送方法が確立されています。

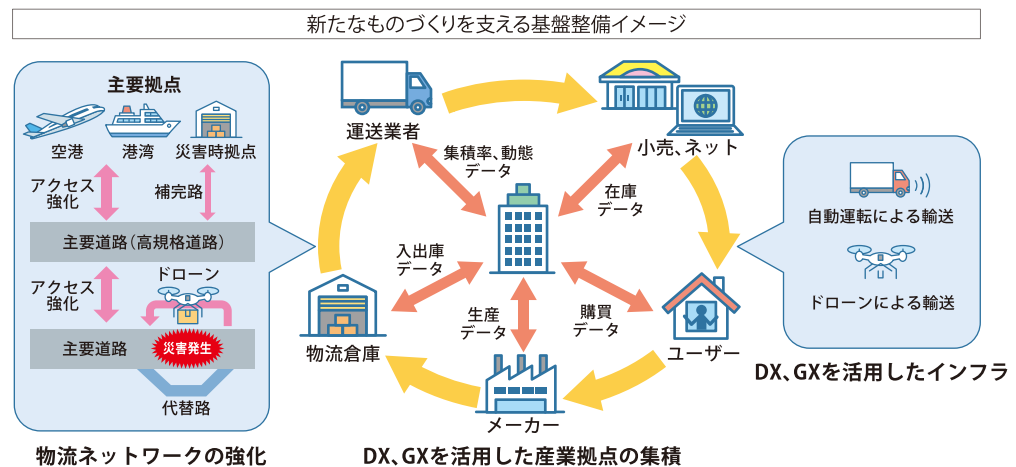
ソフト面では、IoT、ブロックチェーン、クラウドコンピューティング、AI、ビッグデータ解析などの最新のデジタル技術を活用し、作り手・買い手・売り手のつながりを「見える化」することで、サプライチェーン全体の透明性が向上し、無駄のない安定したサービス提供が可能となっています。

- 最適化された道路交通網、自動運転専用路や物流専用路の整備
- 輸送ルートの最適化、渋滞や遅延を回避する物流ネットワーク

② 新技術の活用による新たな産業拠点の創出

DXの推進により、配送や輸送の自動化などが実現され、雇用形態の変化や産学官連携による新たな産業の創出が進み、多様な働き方が実現されています。

- DXの推進によるインフラやドローン発着場の整備
- 研究都市の構築と国際的な産業拠点の集積
- 遠隔操作及び情報の共有と管理によるプラットフォームの構築



4.2 名古屋圏における都市間連携

名古屋圏では、名古屋市が中心的な拠点となり、周辺の都市と連携しながら生活(ヒト)、物流(モノ)、観光(ヒト・コト)等のあらゆる分野で強固にかつ有機的な繋がりを持った圏域を形成しています。

生活面では、通勤、通学、業務、買い物等の様々な生活シーンにおいて、名古屋市と周辺都市間で、円滑な移動や活動が可能な生活環境が構築されています。

物流面では、人材不足等への対応を含め、効率的な物流システムが構築されています。

観光面では、周遊の更なる促進と受け入れ環境の整備が進められています。

① リニア中央新幹線を核とした交通結節点機能強化と多様な交通手段によるネットワークの形成

通勤や業務等での移動を支える交通ネットワークの整備(道路網、鉄道網)や、新たな移動手段として、空飛ぶクルマや自動運転バス等の導入、さらに上空や河川等を活用した移動手段の確保によって移動の円滑化が図られています。

- 交通ネットワークの整備(道路網、鉄道網)、鉄道駅、港、フリッジ駐車場を拠点とした交通結節点機能の強化
- 道路空間の再配分による空飛ぶクルマの発着場、自動運転バス等の専用レーンの整備
- 上空、河川等を活用した移動手段の構築(モノレール、船舶)等

② 人口減少に伴う人手不足を補う物流の完全自動化

名古屋圏では、都市間を自動物流専用道で連結し、名古屋市と周辺都市間の物流に加え、都市内やラストマイルの物流も含め、モノの移動の完全自動化が実現しています。

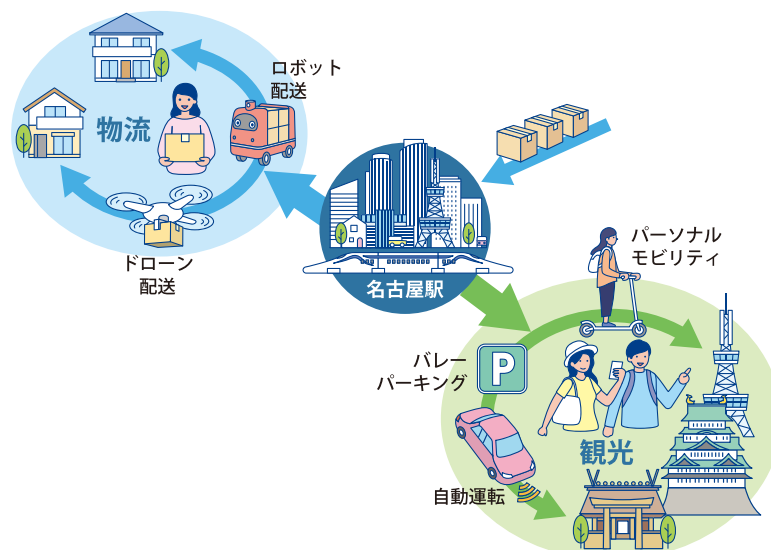
- 中央分離帯や地下の活用等による都市間の自動物流専用道の整備
- ITS(Intelligent Transport Systems:高度道路交通システム)による高速物流システムの導入、ドローン物流や配送ロボットの活用による都市内・ラストワンマイルの物流環境の整備

③ 玄関口と多様な魅力ある都市間の周遊環境の構築

リニア中央新幹線の駅のある名古屋市と周辺の魅力ある都市・地域の連携が強化され、周遊観光の促進や圏域全体の賑わい・活力の向上により、誰もが訪れやすく、訪れたい名古屋圏が形成されています。

- 名古屋圏全体のMaaS構築(都市間の移動手段、駐車場、お店、宿泊施設等の一括検索・予約)
- 観光地内における公共交通の自動運転、自動バレーパーキング、パーソナルモビリティ等の導入

多様な交通手段によるネットワーク形成



4.3 拠点都市のリノベーション

4.3.1 安全で快適な移動・生活環境の整備

気候変動に伴う自然災害の激甚化・頻発化により、毎年のように報告されていた浸水被害や土砂災害などが引き起こす交通・物流ネットワークへの影響や市民生活への被害は、カーボンニュートラルをはじめとしたさまざまな環境対策の実践により解消され、グリーン社会が実現しています。都市と自然が身近に存在する名古屋圏では、健康や生活の質、社会的つながり、経済的発展、環境保護など、さまざまな面での豊かさをもたらされています。自然の役割を重要視して造られた都市は、より持続可能で住みやすい生活環境を提供し、住民の幸福度が高まっています。

緑豊かな生活環境のイメージ



出典：名古屋市

① 省エネ・再エネ拡大等につながるスマートで強靱な暮らしとまちづくり

産業構造の転換や市民生活の適応により、カーボンニュートラルとグリーン社会が実現し、安全で安心な生活環境が整っています。また名古屋圏は中部圏全体のグリーン成長を牽引するモデル地域として経済成長と環境配慮が両立された先進的な地域となっています。

- インフラ等を活用した地域再生エネルギーの導入・利用の拡大
- 脱炭素と気候変動適応策に配慮したまちづくりへの転換

② 次世代自動車に対応した交通・物流・インフラシステムの構築

技術革新により自動車の脱炭素化が達成されています。気象災害の予測技術の進展や気候変動リスクに対応した交通物流システムの普及により、環境にやさしく、災害に強いインフラシステムが構築されています。

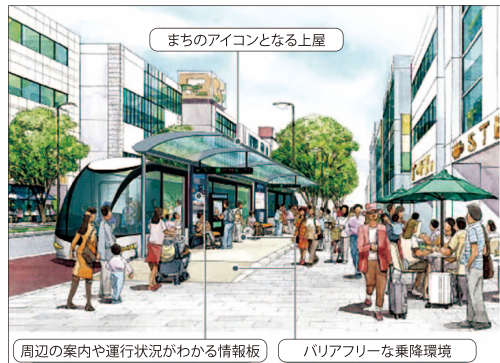
- 気候変動リスクに対応した交通・物流システムの強靱化
- 次世代自動車を実現する人と環境にやさしい交通システム

③ グリーンインフラを活用した自然共生地域づくり

グリーンインフラの社会実装により、CO₂吸収源対策をはじめ、生態系の保全や防災・減災などの課題が解決され、ネイチャーポジティブの実現とともに、健康でゆとりある生活空間が形成されています。また、地域が自立的かつ主導的に運営する仕組みが確立され、持続可能な社会を実現しています。

- 流域治水におけるグリーンインフラの活用推進
- 官民連携で実現するグリーンインフラの社会実装

ひとにやさしい交通システム



出典：Smart Roadway Transit構想、名古屋市、平成31年1月より

多自然川づくりの例



出典：長久手市(香流川)

4.3.2 道路空間の利活用の推進

これまでの道路空間は、高度経済成長期の社会ニーズに応じて、自動車の安全かつ円滑な通行を最優先に設計されてきました。そのため、道路は主に自動車中心で活用されてきました。

今後は、高齢化社会やダイバーシティの進展に伴い、都市内空間の活用方法が多様化し、道路空間に対する利活用のニーズも変化してきます。

そのため、維持管理を含め民間団体等との連携強化を通じて、地域に合った魅力的な道路空間の創造が進められています。特に、季節のメリハリが強い気候下の名古屋圏では、広い道路空間を活用し、環境配慮の機能が一層発揮され、新たな利活用の推進によりエリアの価値向上が進んでいます。

① 自動車中心から歩行者等を

中心とした道路空間への転換

駅前や中心市街地などの地域の拠点となるエリアでは、通過交通の抑制とエリア内での機能分担の整理が進み、自動車中心の道路空間から、歩行者や自転車、新たなモビリティ中心の道路空間へと転換されています。

また、現在の道路を走る自動車が、ドローンや空飛ぶ自動車に置き換わる近い将来においては、人々の安全・安心と効率性や多様性を追求した、新たなシステムと交通ルールが整備されています。

- 人を中心とした道路空間の再配分
- 通過交通の抑制とエリア内での機能分担

② 歩道部、路肩の柔軟な利活用

歩道には、屋根や空調施設を備えた休憩施設や食事施設が設置され、道路空間がより快適に、そして思い思いに利用できるようになっています。

また、エリアの収入源となる道路空間の賃貸や広告、各種モビリティのレンタルなどの設置により、継続可能なエリアマネジメントの仕組みが構築されています。

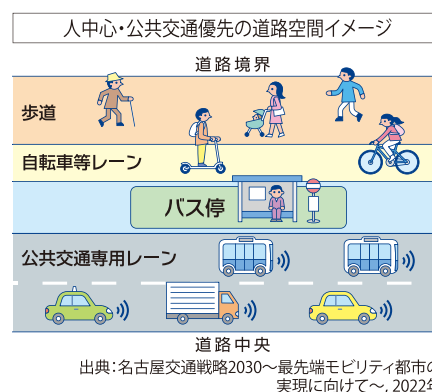
路肩部を活用した荷捌き空間や公共交通の乗降空間、充電設備、歩行者の休憩・滞留空間などが整備され、道路と沿道の双方の多様なニーズに柔軟に対応しています。(用途に応じて路肩を一定の連続区間、ピンポイント箇所、時間帯別で使い分け等)

- 歩行者利便増進道路制度(ほこみち制度)、都市再生整備計画などの活用
- エリアマネジメントやカーブサイドマネジメントの推進

③ 道路空間における自然再興

道路空間における緑や水は、単に緑陰や都市の潤いを提供するだけでなく、自然再生や生物多様性を促進する重要な機能を担っています。人工的な緑や水辺ではなく、より自然に近い環境が道路空間に広がり、多種多様な生物が共存しています。

- 水辺と緑地が一体となった道路空間における自然再興(ネイチャーポジティブ)の展開
- 地域固有の環境に合った多種多様な樹種や緑化形態による新たな道路緑化の展開



柔軟な利活用が実現した道路空間イメージ



出典:2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～, P23

4.3.3 水辺空間の利活用の推進

私たちの周りには、河川や海岸、ため池、水路など、多様で豊かな水辺がありますが、河川や用水路等の覆蓋化などの防災対策により、生活圏における水辺へのアクセスが困難になり、また湧水の枯渇等により水辺空間そのものが減少していました。しかし、水域の水質改善が進められるとともに、都市内でも水辺のオープンスペースが積極的に創出されるようになり、日常において希薄化していた人と水辺との関係に変化が生まれ、以前のように水辺が身近なものになっています。

徳川家康により名古屋の街づくりで造られた堀川や、大正期に舟運のために造られた中川運河、自然河川の庄内川や五条川など、名古屋圏を縦横断する河川の遊歩道が整備され、防災拠点・にぎわい空間として、水辺空間が積極的に利活用されています。

また、気候変動による水災害の激甚化や頻発化への対応とともに、人と自然のポテンシャルを守り活かす水辺空間が再生されています。

① 地域住民の生活(日常)の場の形成

水辺の地形や自然を生かした広場や遊歩道などの整備により、地域住民やコミュニティの拠点が形成されています。

また、水辺の自然や景観をより豊かにし、憩いの空間が形成されています。

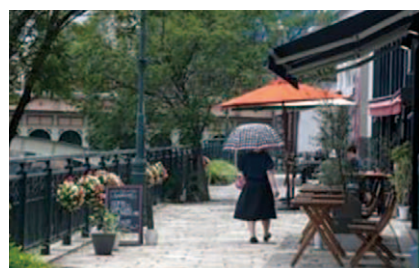
- 名古屋城周辺の堀を活用し、四季折々の景観を楽しめる遊歩道を整備
- 遊歩道や公園など地域の憩いの場としての整備と活用
- 環境教育や防災教育の場としての整備と活用
- 名古屋城周辺の水辺をライトアップし、夜間の観光名所としての魅力向上

② 周辺から多くの人が集まる場の形成

水辺空間には様々なアクティビティや観光拠点が設置され、観光や周辺まちづくりと連携して、多くの人が集まる場として形成されています。

- 運河や水路等の水辺沿いにカフェやレストランの設置、地元の特産品を紹介するマーケットやイベントができるスペースを整備し、地域の魅力を発信
- 港周辺の既存テーマパーク等と連携したファミリー向け観光スポットの提供
- 名古屋港や清水港でクルーズ船寄港地としての機能を強化し、国際的な観光客を誘致
- お祭りなど地域が継承する歴史・文化的な活動と連動した水辺空間の創出

堀川沿いの遊歩道やオープンカフェの設置の例



③ 交通・物流の場の形成

水面や上空を活用した交通・物流ネットワークが構築されています。

- 主要観光地を結ぶ水上バス路線を整備し、観光客と地元住民の利便性を向上
- 名古屋港から名古屋市内中心部までの物流ネットワーク構築による、交通渋滞の緩和と物流効率の向上
- ドローン等による河川上空輸送ルートを構築し、災害時の緊急物資輸送を可能にするためのインフラを整備

4.3.4 いまあるものの付加価値化・リノベーションの推進

これまでのように単に面積を広げて新しいものをつくるのではなく、古き良き建物等に加価値を加えるリノベーションが行われています。名古屋圏では、法的な支援や規制緩和、地域資源の活用、住民や企業の協力により、既存の建物やエリアをリノベーションすることで、地域の魅力を高め、持続可能で魅力的な都市空間を創出しています。名古屋圏はより多様性と活力に満ちた都市に生まれ変わっています。

① 空き家・古い建物の再活用

名古屋市及び周辺地域のエリアごとに、地域固有の素材や技術、文化的要素を活かし、その歴史や文化的背景に合ったリノベーションが行われています。地元の職人や企業との連携により、古民家風の店舗やカフェ、アートギャラリー、シェアオフィスなど、地域にマッチした新たな用途に転換し、地域独自の魅力が高まるとともに、多くの人々を引き寄せ、地域経済が活性化しています。

- 民間企業や住民の積極的なリノベーションを促す助成金や税制優遇措置の設定
- 歴史的建物や街並みを保存しながら現代的な機能や利用方法を取り入れるための柔軟なルールの策定、建築基準や地域規制などの緩和
- 地元企業や職人とのパートナーシップを促進し、伝統技術や地域資源を利用したリノベーションを実施

閉校となった校舎のリノベーション活用の例



② 持続可能な都市空間の創出

既存の建物の構造を生かしながら、断熱性の向上や再生可能エネルギーの導入、リサイクル素材の使用など、環境に配慮したリノベーションが進められています。さらに、屋上や空き地に緑化を進めることで、都市のヒートアイランド現象を緩和し、地域の生物多様性を増進させるグリーンインフラの導入が行われ、持続可能な都市空間が創出されています。

- 環境負荷低減の取り組みを推進する省エネルギー建材や再生可能エネルギーを利用したリノベーションの支援策の創設
- グリーンインフラを広げるためのリノベーション時における屋上緑化や空き地の緑化を進めるための支援策の創設

③ 地域コミュニティの再生

地域住民や企業、行政が協力して進める住民参加型のリノベーションが進行しており、地域の文化や歴史を尊重した形での改修や改良が行われ、地域コミュニティの活性化が図られています。また、住民や事業者が共用できる施設やスペース作りにより、地域のコミュニティが再生しています。

- 住民参加型のワークショップや地域協議会を開催し、リノベーション計画に対する意見交換と協力を促進
- 共用スペース（シェアオフィス、コワーキングスペース、共同ガーデンなど）の整備、地域住民が共有できる空間を増設し、コミュニティ形成を支援